



校長室から

甘利 尚之

令和4年10月20日(木) No.19

「学校保健委員会」に思う



ちょっと前(9月16日)になりますが、本校の学校保健委員会を行いました。保護者と共に、大きく「子どもに関わる保健的内容」について考え合おうという会です。コロナ禍にあることを考え、昨年に引き続き、オンラインによるZoomによる参加と会場での直接参加、「ハイブリッド形式」で行いました。

講師は王鷲美穂先生。先生は、「おひさま料理教室」の主宰というお立場の方で、「食育インストラクター」「ソイフードマイスター」「豆café enjyu」店主、信州上田「発酵の女学校」料理講師と、いくつもの顔を持つ方でした。SBC「ずくだせテレビ」の料理コーナーにもご出演の方でもあります。実は、本校とさほど離れていない小学校の保護者でもあります。上田地域の方です。



王鷲先生には、『食は心を育てる』おうち料理でみんなを笑顔に～ 一粒の涙から伝えたい幸せ ～』と題したご講演をいただきました。す。お子さんのご病気をきっかけに「食」の追求を始められたこと、現代の食事の課題から、子どもたちに「選食力」「共食力」「食料環境について考える力」といった力をつけたいこと等、実際の「レシピ」も交え、お話しいただきました。

学校現場における、食に関わる教育の大切さ、「食育」の重要性については、強く意識をしていかななくてはならないことだと認識しています。本校でも、昨年来、塩田の玉ねぎ農家さんとの交流、「風さやか」(長野県のオリジナル米)についての理解を深める催しなどを通し、食べることの大切さについて児童にも考えてもらうようにしてきました。「食べることは生きること」、食べることは、単に、生物としての生命を維持するのみにあるのではなく、人間として生きていくために必要な「心」の成長にも関係しているということを考えた時、地域の方に教わりながら、地域と関わりながら、「食」に関わる学習をしていくことの意味は大変大きなものがあるように感じています。